



國定古蹟
林本源園邸
The Lin Family Mansion and Garden

庭園開園時間

- 午前9:00から午後5:00まで。(祝日も通常開園)
- 休園日は、毎月第1週の月曜日。
旧暦の大晦日、元日は休園。

交通案内



- 1 北門街バス停: 264、307、310、701、702、786、793、810、857
- 2 政事務所バス停: 857(淡海--板橋)、786(公西--板橋)
- 3 林家花園バス停: 701、702、793
- 4 地下鉄(MRT): 板南線府中駅1番出口を出て、府中路に沿って進み、慈恵宮を過ぎて、信号で右折。文昌街を直進すると本園に到着。徒歩約15分。
- 5 台湾鉄道、高速鉄道: 板橋駅にて下車、板橋バス停でバスに乗換え。または徒歩20分で本園に到着。
- 3 高速道路国道3号: 土城 (TUCHENG) IC → 快速道路65号 (板橋方向) → 県民大道 → 南雅南路で左折 → 館前西路 → 府中路 → 西門街 (林本源園邸)到着。
- 1 中山高速道路: 五股 (WUGU) IC → 二省道 → 思源路で右折 → 大漢橋に上り → 文化路で右折 → 民權路で右折し → 公館街で左折した後 → 西門街を直進して到着。

案内

林本源園邸の総敷地面積は約6,054坪です。清の咸豊三年(西暦1853年)に林家は三落大厝を建て、その後、書屋及び方鑑齋などの建物を完成させました。光緒十四年(西暦1888年)、林維源は巨額の資金を投入し、全面的な修築に着手し園内の各景色を調和させ、体系的な庭園を造りました。そして光緒十九年(西暦1893年)に全ての建物が落成しました。

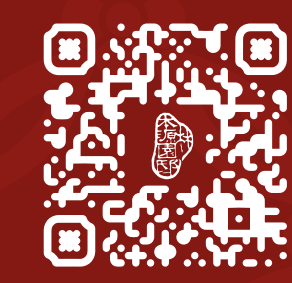
ガイドサービス

- 毎日午前10時より午後3時まで指定時間に行ないます。各時間の参加人数は15名までです。
- ガイドサービス時間: 10:00、11:00、14:00、15:00 (休日14:30追加いたします。)

ガイドサービスをご希望の方はインフォメーションセンターでお申し込み下さい。



新北市役所文化局林本源園邸
New Taipei City The Lin Family Mansion and Garden
220050 新北市板橋區西門街9號
No.9, Ximen St., Banqiao Dist., New Taipei City 220050, Taiwan (R.O.C.)
TEL: (02) 2965-3061~3
FAX: (02) 2967-5264



林園官網



臉書粉專



廣告



林本源園邸ガイドマップ

- 📍 インフォメーションセンター
- 🚻 トイレ
- 👶 授乳ルーム
- 🚑 AED
- 🚰 給水機
- 📌 記念スタンプ



📺 ビデオ放送

ビデオ: 林園案内
時間: 11分
言葉: 中国語・英語・日本語・韓国語・客家語・台湾語
放送場所: 觀稼楼

1. 三落大厝 (私有資産)

三落大厝の格式は雄大かつ謹厳で、装飾技巧も豊富で、石彫、木彫、レンガ彫刻、泥塑、彩絵、剪黏などがあり、すべて一流の仕上がりです。林家の住宅は、清代台湾邸宅の典型です。今は、どなたもお住まいではありませんがご先祖と神様をお祀りされておられます。



2. 汲古書屋

清の咸豊年代に、林国华、林国芳兄弟は、三落大厝の後庭に汲古書屋を建築しました。汲古書屋は、当時貴重な書籍を保存する場所でした。そして、また学問をする場所でもありました。



3. 方鑑齋

方鑑齋は、書齋であり、文人達が吟詠する处でもありました。建物の前に方形の池があり、水面が鏡のようなため、「方鑑」と名付けられました。池の周りにそれぞれ戯亭、観賞台、回廊、小橋などの建築があります。回廊の壁には有名書家の書が彫られていましたが、惜しまれることに年月が経ち、現在識別できるものは限られています。



4. 来青閣

来青閣は園内で最高かつ最も華麗な建物です。楼閣の前には舞台があり、その額には「開軒一笑」とあります。来青閣の構造は精巧で、二層閣であり、昔は貴賓の宿泊した場所です。楼に登れば四方の眺望が良く、青山緑野が目に入ったため、来青と命名されました。



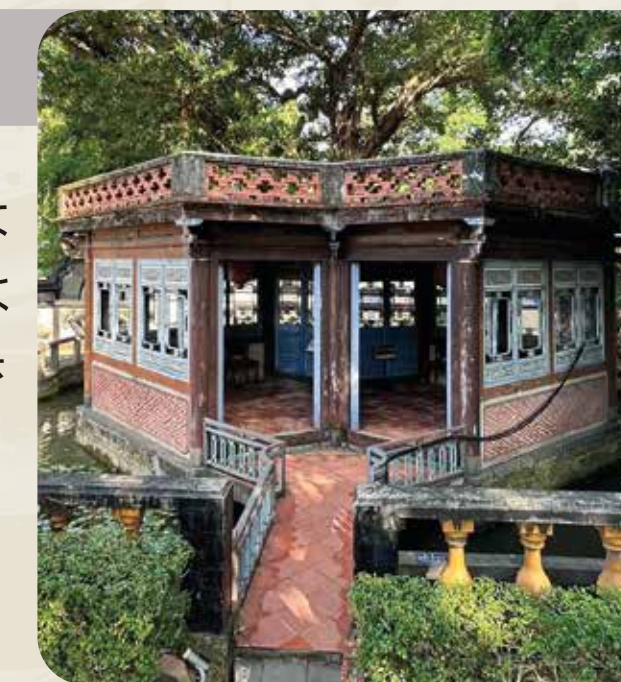
5. 香玉簾

「簾」は、楼閣横の小屋の意味です。香玉簾の左右には来青閣、定静堂及び月波水榭とを繋ぐ回廊があり、ここは中継場所です。そして、前方には花壇があり、各種の花を觀賞して楽しむ場所でした。



6. 月波水榭

月波水榭は、池の中の方勝形(菱形の重なった形)の建物です。隣の築山の入口には、「拾級」の額があります。これは、一步一步登ると言う意味です。



7. 定静堂

定静堂は園内で最大の面積を有する四合院建築で、昔林家が貴賓を招待して盛大な宴会を行った場所です。定静は、儒教『大学篇』の「定まって後に能く静かなり」より命名したものです。内部はほとんど仕切がなく、開放式廊庭で。中庭に穿心廊を設け、高く開けた空間は、意気盛んな様子を感じさせます。



8. 觀稼楼

觀稼楼もまた楼閣建築で、形体は来青閣より小さいため小楼と称されます。二階に登れば林家の耕地が眺望でき、広々とした景色が見られたため、この名前が付けられました。楼の前には巻物のような形をした書卷壁があり、左右に八角洞門があります。楼の後ろに軒亭、楼の左右に小さい庭があり、極めて精緻な構造です。



9. 榕蔭大池

榕蔭大池には多くのガジュマルの木が植えられているため、榕蔭大池と称されています。池の中に島があり、弓状の石橋でつながっています。池の北側は築山で、池の周りには、さまざまな型の亭があります。

